

# 「道德教育の未来」セミナー（第3回）

## テーマ 次世代を生きる子どもと 新しい道德教育

開催日：2025（令和7）年2月23日《富士山の日》（日） 13:00～16:30

開催場所：本学附属小金井小学校オンライン室

### 実施結果のご報告

本年度のセミナーは、今回も「富士山の日」に合わせて、本学の附属小金井小学校のご理解と ICT 部の先生方の全面的なご協力のもと、上記の場所にて開催されました。

いま、教育課程の改善を見据えた道德教育の一層の改善・充実への動きが見え始めています。そこで、3回目となる今回は、我が国の道德教育の研究と実践を長く牽引されている先生方をお迎えして、道德教育に期待されることへの示唆をいただき、これからを生きる子どもたちの幸福な生き方を後押しするために、道德教育のもつ可能性や課題を未来志向で考え合う機会となることを期待して実施しました。

セミナーは、およそ以下のような内容で進められました。

#### セミナーのプログラム（概要）

- 開会挨拶
- 紹介 本学の道德教育推進事業について
- 講話と展望：『道德教育の課題と今後への方策』
  - 提言：道德教育と授業を未来志向で展望する
  - 講話①：道德教育の現状と今後に向けて
  - 講話②：道德教育と授業の新たな可能性ひらく
- 《休憩》
- シンポジウム：これからの道德教育を共に考える
  - 主張① 主張② 2つの研究会のメンバーから
  - 協議：令和の時代を生き抜く子どもの心を育てる
- 閉会挨拶

13:00	開会挨拶 紹介 本学の道德教育推進事業について	進行：浅部 航太（東京学芸大学） 本学副学長・機構長：佐々木幸寿 推進室室長 永田 繁雄
13:10	講話と展望：『道德教育の課題から これからの姿を描く』	
13:10 13:40	提言：道德教育と授業を未来志向で展望する	永田 繁雄（東京学芸大学）
13:40 14:20	講話①：道德教育のこれからをひらく	浅見 哲也 氏（十文字学園女子大学）
14:20 15:00	講話②：道德教育の現在とこれからを考える	西野真由美 氏（国立教育政策研究所）
休憩（15:00～15:10）		
15:10	シンポジウム：これからの道德教育を共に考える	
	主張①：「新しい道德教育を考える会」から	遠藤 信幸
	主張②：「東京学芸大附竹早小・語ルシス」から	幸阪 創平
15:35	協議：令和の時代を生き抜く子どもの心を育てる	シンポジスト 浅見 哲也 氏（十文字学園女子大学） 西野真由美 氏（国立教育政策研究所） 松尾 直博（東京学芸大学） 上記の主張者2名
※Zoom発信会場別室との、人数を制限した協議も開催し、中継にて発信します。オンラインにてご参加ください。		
コーディネーター 永田 繁雄（東京学芸大学）		
16:25	閉会挨拶	齋藤 嘉則（東京学芸大学）
16:30	終了	



なお、当日は、全国よりオンライン（Zoom）へと、全体で223名にもものぼる多数の方にお集まりいただき、中継を視聴いただきました。実施に当たっては、本学や都内の道德研究を連係する先生方の様々なご協力をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

## セミナーの実際から

本セミナーでは、の最初に、本学の浅部航太による司会・進行のもと、まず、副学長の佐々木幸寿による開会挨拶、その後、推進室長の永田繁雄より、本学の道徳教育推進室で取り組む道徳教育推進事業について、その取り組んできた内容の概要を報告させていただきました。

### 講話と展望：『道徳教育の課題から これからの姿を描く』

13:10～15:00

続いて、前半のプログラムである「講話と展望」は、上記のタイトルのもと、次の提言と2つの講話で進められました。まず、本学担当者よりの7つの項目にわたって提言しました。その後、浅見哲也氏と西野真由美氏のお二人の講話者より、およそ以下のような内容(以下は柱立てのみ)に触れながら、現在の課題と、これからの期待される道徳教育の方向性を様々に示していただきました。

#### 提言：道徳教育と授業を未来志向で展望する

永田 繁雄 (東京学芸大学)



- ・道徳教育の力で学校の一層の魅力化を図る～その7つの課題
- 1) 私たちと違う環境で生きる子どもを想像することから…
- 2) コロナ禍前後の平成道徳と令和道徳は何が変わるのか？
- 3) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の融合的発想とは？
- 4) 現代的な課題とウェルビーイングにどう向き合うか？
- 5) 教師が伴走者になることのよさと課題を考える…
- 6) 問題意識が生きる追求的な授業をどう仕立てるか？
- 7) 発問発想の多様な引き出しが授業を筋肉質にする…ほか

#### 講話①：道徳教育のこれからをひらく

浅見 哲也氏 (十文字学園女子大学)

- ・全教育活動を通じて行う道徳教育～確かな道徳教育
- ・目指す子ども像と重点内容項目の例(…学校目標など)
- ・道徳教育と道徳科の関連を図るために…要のはたらき
- ・道徳的行為が実践できる子どもの育成
- ・道徳科の授業における評価～よさを認め励ます評価
- ・令和の日本型学校教育…指導の個別化と学習の個性化  
…学習指導過程の例 指導方法の工夫の例 ほか
- ・これからのに向けて…道徳教育は子どもたちの未来への投資



#### 講話②：道徳教育の現在とこれからを考える

西野真由美氏 (国立教育政策研究所)



- ・道徳教育改訂の理念 目指す資質・能力、「見方・考え方」とは
- ・道徳科における学習活動と評価の視点、指導方法の工夫
- ・「道徳教育実施状況調査」「学教指導要領実施状況調査」から…
- ・道徳科で「何が実現したか」「何が実現していないか」
- ・「教える」と「学ぶ」の緊張関係…「参画」する自律的学習者像
- ・教育とウェルビーイング(教育振興基本計画の整理)
- ・生き方教育(学習)の統合的アプローチ…「生き方探究」の場
- ・人生を幸せによりよく生きる力を育てる ほか

## シンポジウム：『今、必要な道德教育の在り方とは…』

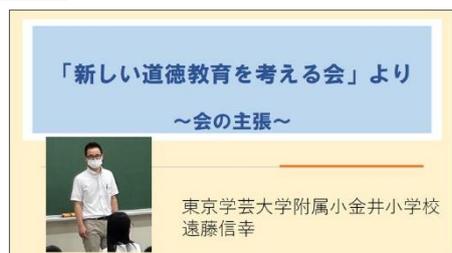
15:10～16:25

休憩の後、上記のタイトルのもと、オンライン室とその隣室とを繋いで、ミニシンポジウムを開きました。まず、本学が様々に関わり合う2つの道德教育研究会のメンバーから、それぞれの研究協議の中で深められた考えや課題意識などを提示してもらいました。



### 主張①：「新しい道德教育を考える会」から

遠藤 信幸（本学附属小金井小）

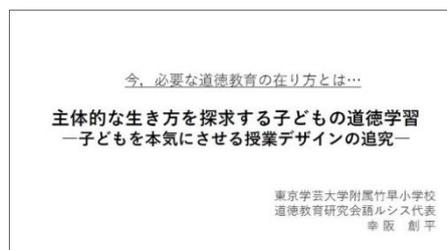


#### 【主張の骨子】

- ◇「考える会」の活動：その経緯と概要（平成2年以降）
  - ・本会の趣旨：「子どもに学ぶ、価値に学ぶ、教材に学ぶ」
  - ・子供と共に創る道德の授業：子供の心に迫る発問の構成等
  - ・授業構想の理念：子供の実態、価値の理解、教材の読み込み
- ◇現在のテーマ「主体的な学び」～自分事、他教科等との関連 ほか

### 主張②：「東京学芸大学附属竹早小・語ルシス」から

幸阪 創平（本学附属竹早小）



#### 【主張の骨子】

- ◇研究テーマ「主体的な生き方を探求する子どもの道德学習」
  - …教科横断的な学び、柔軟な教育課程、「伴走者」としての教師
- ◇授業における「子ども」「教師」「教材」の3つの緊張関係
  - ①教師と子どもの関係 ②教師と教材の関係
  - ③子どもと教材の関係 ~相互の衝突、葛藤から課題を検討 ほか

## 協議：『今、必要な道德教育の在り方とは…』

2つの研究会からの主張を受けて、シンポジウムは協議に入りました。上記の主張者2名を含めて、前半の講話者を中心に、右のような5名の登壇により、本学担当（永田）のコーディネートにより進めました。

協議の皮切りに、本学の松尾直博より、協議を一層深める視点から、課題事項をさらに掘り下げるための話題の提示をしました。

### シンポジスト

浅見 哲也氏（十文字学園女子大学）

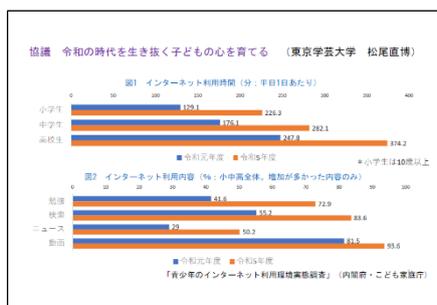
西野真由美氏（国立教育政策研究所）

松尾 直博（東京学芸大学）

【主張者(上記)】 遠藤 信幸 幸阪 創平

### コーディネーター

永田 繁雄（東京学芸大学）



松尾直博の説明画面より（一部）

#### 【松尾による話題提示の骨子】

- ・令和の時代を生きる子どものインターネット利用の現状
- ・学校での知識データベースにアクセスする学びと、学校外での学びの情報源や方法が多種多様化し強力な場合での学び…
- ・個々の「サイバー空間」が極度に異なる中で価値観形成の課題
- ・対極構造、異議を包摂しての「道德的シンポ」の実現、
- ・「道德」（規範倫理学）と「メタ道德」（メタ倫理学） ほか

## 【協議で話題になった主なことから】

以上の主張や話題提示を踏まえて、各登壇者相互の協議が進められました。まず、「特別の教科」である道徳科が始まって約6年。それをどのように受け止め、評価するかなどについて交えた後、主として、次のような内容が話題に上りました。また、協議はオンライン室の隣室に集合した身近な参加者の意見の往還も含めて、議論が深められました。

- 現在、一時間一主題による授業展開が通常として広がっているが、複数時間扱いの授業や、各教科等との横断的な授業をより広げていくことも大切。また、一主題が一内容とならず、複数の価値が重なる授業も多く、そのことについて積極的に考えていく必要もあるのでは…。
- 高等学校で話題になる「自己の選択基準、価値基準の形成」について、中学校段階などでも生き方の探究の視点で主体的な学びを重視していくことが重要。子どもが自ら価値を創造していくという視点を含むことも考えられるのでは…。



- ICTの進歩の中で、学び方がどのように変わっていくか。今後、サイバー空間での学びが増えていくが、それによって特に言語に依存するなど、学び方が大きく変わることを注視していく必要がある。

- 「道徳」を「メタ道徳」にまで視野を広げていくことを大切にしたい。道徳の規範を学ぶ

に留まらず、「そもそも、道徳とは何か」などと「価値を哲学する学び」を重視していきたい。

- 道徳教育は、生き方の問題とともに、現代的な教育課題とどのように向き合っていくかがこれからは一層問われることになる。
- 子どもの柔軟な思考を受け止めて、教師の明確な指導観に重ねて、むしろ子どもの明確な学習観を描いて柔軟に伴走していくような指導の感覚を大事にしていきたい。
- 価値を学ぶ授業と、教材で学ぶ授業が大きく区別されるが、今は、価値を学ぶことに傾斜がかかりがちだが、教材に学ぶ授業の在り方も、さらに大事にしていきたい。
- これからの道徳教育では、ウェルビーイングに向き合っていくことが重要になる。それは道徳教育の目標のみならず、授業での内容や方法のそれぞれで関わっている。

最後に、齋藤嘉則により、閉会挨拶により、課題を今後につなげる展望をもち、本セミナーを閉じました。

当日は、オンライン室及び隣室をつないでの質疑となりましたが、オンライン参加者からのチャットでの質問については、それぞれ、事後にメールにて回答、ご連絡を差し上げました。



## 実施後に寄せられた感想&コメント等から

終了後に、チャットやメール等にさまざまなご意見やご感想をいただきました。ここでは、その中からいくつかを整理をして、以下に掲載させていただきます。

### 【全体的な学びとして】

- 私たち教員の「観」を刺激する内容が多く、楽しく学びの多いセミナーでした。
- 教科化されて数年が経ち、新たな授業の在り方を模索していく必要があるとハッとさせられました。

### 【道徳授業改善の方向性】

- ハウツーではなくて、根っこのお話をたくさん学ぶことができ、特に内容項目や題材を分析する視点が増えました。
- 価値の創造型道徳授業へ、という点について、納得解を考えるという思考へ子供を誘っていく問い返しをすることによって、より深まりのある議論を展開できそうだと考えました。
- よりよい生き方について考えることは、どちらかというと「未来志向」で、「選択基準、判断基準」は現在の自分を客観視できてこそ形成されていくと考えました。

### 【ウェルビーイングに関わって】

- 「幸せのカタチは多様だが、幸せを求めることはみんなに共通している」という考えに共感しました。
- 現代の社会を取り巻く課題とウェルビーイングの視点からどのように道徳教育を進めるか、悩みがつきませんが、視野をもっと広げて研究を続けたいと思いました。

### 【特別支援・高等学校に関して】

- 特別支援学校（知的障害）での実践も取り上げてほしいです。何か、それに関わる最新の情報があれば知りたいと感じています。
- 高校ではなかなか「道徳」の時間をもてないのですが、行事や授業で考えていきたいと想いました。

### 【これからの授業で】

- 「メタ道徳」という言葉がとてもフィットして、今後の方向性を示す視点だと思いました。
- 「1時間1チャレンジ」を意識して明日の実践から変えていくことこそが大事だと実感しました。
- 道徳授業をカラフルに、柔軟に捉えながら、子どもの活力を高めていける道徳教育を目指していきたいと改めて考えました。

今回も、全国より、多数の方々がオンラインにてご参加いただき、また、ご意見や感想等をいただき、ありがとうございました。これらの貴重な内容を、今後のセミナーの改善や、道徳教育に関する活動などに引き続き生かしてまいります。



東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構  
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室